

(様式) 府立松原高等学校 「学校協議会」 報告書 (第3回)

日 時	平成30年2月10日 (土) 14:30~17:00			
出席者	協議会委員	職名等	学校事務局	校務分掌等
	房本 晃	社会福祉法人 バオバブ福祉会理事	島 岡 律 子	教頭
	菊 地 栄 治	早稲田大学教授	麦 田 伸 一	首席
	山 口 百 合	本校PTA会長	伊 藤 あ ゆ	首席
			山 口 裕 子	人権教育主担
			木 村 悠	人権教育主担
	教職員等			
	林 茂樹 (摂南大学特任準教授) 田口 裕美子 (事務長)・清水 信吾・松本 雅由・深井 恵介・岩崎 江津子・中川 泰輔 井上 智賀・眞杉 凌・三村 祐貴			
おもな テーマ	1) 学校経営計画及び学校評価報告 2) 今年度の取り組み報告 3) 協議会委員からの感想・提言			
協議内容 の概略	1) ・これまでの学力デザインについて、「B 系統だった知識」と「C 体験的な学び」を二分せずに考えてみては、メタ認知、つまり「学び方を学ぶ」取り組みが大切。(平野校長) ・「学校教育自己診断アンケート」報告。依然としてどの項目も肯定評価が高い割合だが、3年間で少し下がっている部分もある。授業改善等、さらに取り組んでいく。(麦田首席) ・活動に主体的な生徒が、日常の関わりを通して他の生徒を巻き込むチカラに期待。(深井教諭) ・学校生活について、生徒手帳の記載内容を確認。(島岡教頭) 2) ・「課題早期発見フォローアップ事業」報告。生徒主体の居場所作り、松高 kitchen を進めた結果、自己有用感や場への信頼が高まっていった。さらなる工夫ができる。(木村教諭) ・初任者研修ふりかえり。単なる教科指導だけでない、何かを学びにきたと実感。生徒どうし、教員同士のピアの関わりを大切にしたい。授業以外のあらゆる仕事を、書ききれない位経験した。(井上教諭・眞杉教諭・三村教諭) 3) 協議会委員からの感想・提言			
提言内 容・改善 方策	<p>&lt;学校生活のルールについて&gt;18歳で有権者になることを考えると、「禁止」事項が多い。規範意識は「何がダメなのか」を考えるとところから始まる。ヨーロッパでは禁止でなく「～するべき」と表現することが多い。</p> <p>&lt;評価、アンケートについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活実態把握をそれぞれの主観で話すこと。学校の言葉は主観的だがその中に真実があることも。</li> <li>数値化し、可視化すればわかりやすい。一方で、数値化することでマスキングされることがあることも。「語り」で、それとバランスをとっていくことがより大切になる。</li> <li>「先生きて！」と発信できる生徒が少なくなったというが、「何でも言っておいで！」という構えが本当にできているか、ふりかえりを。</li> </ul> <p>&lt;松高 kitchen について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援する／される関係は固定化されない。</li> <li>食べることは人間の基本。松高らしいつなぎかたが自然にある。役割は関係の中でできていくもの。「やらされた感」がないように。また、継続が目的ではない。意味があれば続いていく。</li> </ul>			